



子ども会活動振興策の方向性

令和6年12月

名古屋市

目 次

	頁
1 策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 本市の子ども会活動の現状と主な課題・・・・・・・・	1
3 子ども会活動の振興に向けた基本理念及び基本方針	
(1) 基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・	5
(2) 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・	5
4 基本方針に基づく子ども会活動振興策の方向性	
(1) 保護者負担の軽減・・・・・・・・	6
(2) 参加機会の充実・・・・・・・・	8
(3) 活動の魅力向上と効果的なP Rの実施・・・・・・・・	9
5 今後について・・・・・・・・	10

参考資料

(1) 地域子ども会の団体数及び会員数の推移・・・・・・・・	11
(2) 現行の子ども会に対する支援策・・・・・・・・	12
(3) 子ども会活動の振興策の方向性策定に向けた調査・検討・・・・・・・・	15
(4) 「子ども会活動の振興に向けた方向性」について（意見書）の概要・・	18

1 策定の趣旨

保護者を始めとする子ども会の育成者や指導者、地域のさまざまな方に支えられている子ども会活動は、子どもにとって、身近な地域で異年齢の子どもの交流や幅広い体験活動、地域の大人との関わりを通じて、継続的な心身両面の成長・発達につながる非常に意義のある取り組みです。

また、子どもにとっては、学校や家庭以外で過ごす居場所も重要であり、子ども会が身近な地域における子どもの居場所となることで、子どもたちが地域に関心を寄せるきっかけになるものと考えられます。

しかしながら、子ども会については、全国的に会員数及び団体数が減少しているなか、本市においても減少傾向が継続しており、特に近年は、その傾向が顕著になっているため、多くの地域の子どもの子ども会活動に参加する機会を失う状況になっています。

減少の主な要因としては、運営に携わる保護者の負担の大きさなどがあると考えられるため、今般、保護者負担の軽減を重点とした今後の子ども会活動の振興に向けた施策の方向性を策定し、方向性に基づき各種支援策を着実に進めることで、子ども会活動が子どもや保護者にとって魅力的なものとなるよう、活動の活性化を図るものです。

2 本市の子ども会活動の現状と主な課題

(1) 保護者負担の軽減

区分	内容
現 状	・保護者を対象としたアンケート調査（注1）では、子ども会活動を負担に感じる（「かなり負担に感じる（感じた）」及び「少し負担に感じる（感じた）」の合計）と回答した方が全体の6割を占めています。 ・同調査では負担に感じる内容として、「役員や活動の手伝いが大変なこと（82.4%）」や「子ども会活動のための会議に時間がとられること（51.6%）」が上位を占めています。 ・子ども会役員を対象としたアンケート調査（注2）では、地域子ども会の行事のサポートとしてあったらよいものとしては、「行事プランやイベント提供者の情報提供（39.2%）」や「行事当日の運営補助スタッフの派遣（31.5%）」が上位を占めています。 ・同調査では地域子ども会の役員同士の連絡や情報共有については、ICTツールを活用して効率化を図ることで、負担軽減につながるとの意見がありました。

区分	内容
主な課題	・近年の子ども会活動については、運営に携わる保護者の多くが子ども会活動を負担に感じており、保護者負担の大きさが会員数や団体数の減少につながっているため、早急に負担軽減につながる取り組みが必要です。
(参考) 有識者会議 からの意見 (注3)	・活動を支える保護者の負担感が大きくなっていることから、保護者に活動の担い手としての役割を期待することが難しくなっている状況が見受けられる。 ・特に、近年、保護者の負担感から子ども会への参加を回避する状況が顕著に見られており、ICTツールを活用した行事や会議の効率化に対する支援、市が交付する助成金の申請手続きの簡素化等を通じて、早急に保護者の負担軽減につながる仕組みを検討する必要がある。 ・また、保護者以外の支え手として、子ども会ボランティアサークルへの支援の強化や子ども会活動アシストバンク事業の本格実施、学生・NPO法人等との連携などを進める必要がある。

(注1) 令和6年5月に実施した市内の小学1年生～中学1年生の子どもの保護者を対象としたアンケート調査の意見 (P17 参照)

(注2) 令和4年7月実施に実施した学区子ども会育成者組織 (以下、「学区子連」という。) 代表者を対象としたアンケート調査の意見 (P15 参照)

(注3) 有識者会議とは、「名古屋市子ども会活動振興策の方向性策定に向けた検討会議」をいう。(P18 参照)

(2) 参加機会の充実

区分	内容
現 状	・主に町内会・自治会単位で組織される地域子ども会の団体数 (注) は、平成26年度から令和5年度までの10年間で、2,258団体から1,501団体へ減少しています。 ・学区単位で組織される学区子連の団体数 (注) についても、平成26年度から令和5年度までの10年間で、214団体から137団体へ減少しています。

区分	内容
主な課題	・近年の子ども会の団体数の減少を受け、子ども会活動に参加したくても参加できない地域があるため、どの地域でも参加の機会が確保できるよう支援する必要があります。
(参考) 有識者会議 からの意見	・近年の団体数減少を受け、活動が行われていない地域も少なくないことから、子ども会の新設につながる取り組みや子ども会のない地域における参加の仕組みを検討する必要がある。

(注) 地域子ども会の団体数および学区子連の団体数は、助成金の交付決定団体数

(3) 活動の魅力向上と効果的なPRの実施

区分	内容
現 状	・子どもを対象としたアンケート調査(注1)では、子ども会に加入している、または加入していたことがある子どもの7割以上が「楽しい」または「まあまあ楽しい」と回答しています。 ・同調査では子ども会に加入していない(加入していたことはない)子どもの8割以上が「加入したくない」または「どちらでもない(わからない)」と回答しており、加入したくない理由として、「子ども会の活動は、楽しそうと思わない(28.1%)」や「子ども会がどういう活動をしているかわからない(26.6%)」という意見がありました。 ・子ども主体の子ども会行事の参加者へのアンケート調査(注2)では、子ども全員から、「行事を通じて子ども会活動を好きになった」や「今後、友だちやきょうだいに子ども会に入ることを勧めたい」と回答がありました。 ・同調査では保護者からも「子どもスタッフが大きな声でいきいきと対応していた。」などの意見がありました。
主な課題	・近年、子どもの休日の過ごし方が多様化する中で、子どもが進んで参加したくなるよう、子ども会ならではの活動の魅力を高める必要があります。 ・また、子ども会の活動の魅力を幅広く伝えるための、効果的なPRに取り組む必要があります。

区分	内容
(参考) 有識者会議 からの意見	・子ども会の魅力向上には、子ども自身が主体的に行事の企画や運営に携わる取り組みが必要であり、子どもワークショップに対する運営支援などの取り組みが必要である。 ・子ども会への加入や継続につながる要因としては、子どもや保護者同士の推奨が重要になると考えられることから、子どもや保護者の子ども会に対する愛着をさらに高める取り組みを進める必要がある。

(注 1) 令和 6 年 5 月に実施した市内の小学 1 年生～中学 1 年生の子どもを対象としたアンケート調査の意見 (P17 参照)

(注 2) 令和 5 年 8 月に実施した子どもが主体となって企画運営を行う子ども会行事の参加者を対象としたアンケート調査の意見 (P16 参照)



3 子ども会活動の振興に向けた基本理念及び基本方針

(1) 基本理念

子どもが遊び、学び、交流し、体験する機会は、子どもが生まれながらにして持つ権利であり、子どもの成長にとって非常に大切です。

このような機会を地域で提供している子ども会活動を活性化することで、子どもたちが身近な地域で異年齢の子どもや大人と交わりながら、のびのびと豊かに育つことをめざします。

また、子ども会活動が保護者にとっても、身近な地域で子どもの成長を見守りながら交流を深めることができる魅力的なものとなることをめざします。

(2) 基本方針

① 保護者負担の軽減

- ・運営に携わる保護者負担の大きさが子ども会の団体数や会員数の減少につながっていることを踏まえ、ICTツールの活用を始めとした運営の効率化を進めることで早急に負担軽減を図ります。
- ・保護者を始めとする子ども会関係者から運営の効率化や子ども会活動の活性化に向けたアイデア・実践例等を募り、発信する仕組みを作ることによって、開かれた子ども会活動をめざします。
- ・子どもの健やかな育ちを社会全体で支援するため、市や町内会・自治会等の地域団体とともに、学生・NPO法人など、多様な支え手が幅広く関わる子ども会活動をめざします。

② 参加機会の充実

- ・子ども会の新設・再開につながる取り組みや子ども会のない地域における参加の仕組みを設けます。

③ 活動の魅力向上と効果的なPRの実施

- ・子どもたち自身が企画運営に関わる「子どもの手による子ども会活動」の促進などを通じ、子ども会活動の魅力向上を図ります。
- ・子ども会活動の魅力が子どもや保護者を始め、幅広く市民に届くよう、子ども会活動のPRを強化します。

4 基本方針に基づく子ども会活動振興策の方向性

(1) 保護者負担の軽減

区分	振興策	内 容
運 営 の 効 率 化	○ I C Tツールの活用促進	・ 講習会や専門家派遣によるサポートなどを通じて、ウェブ会議システムやチャットツールなどのコミュニケーションツールの活用を促進し、会議や行事の準備など、子ども会運営の効率化が進むように支援していきます。
	○子ども会の運営事務マニュアルや相談対応事例集の作成・配信	・ 子ども会役員の不安や負担を減らすために、I C Tの活用も含めた子ども会運営のマニュアルや相談事例集を作成し、動画配信などを活用して提供します。
	○子ども会運営情報の集約・発信ができるデジタルプラットフォームの整備	・ 保護者を始めとする子ども会の関係者から、運営の効率化や子ども会活動を盛り上げるためのアイデア、実践例などをウェブサイト上に集積し、情報を共有するデジタルプラットフォームを整備することで、活動事例の共有を進めるとともに、寄せられた意見等について、市の今後の取り組みに反映させていきます。
	○子ども会運営助成金の申請手続きのオンライン化	・ 市の助成金の申請手続きを簡単にするとともに、過去の申請内容も確認しながら作成できるように、クラウドサービスを使って、オンラインで申請できるようにします。
	○区子連等の運営の効率化に向けた支援	・ 子ども会からの相談対応やリーダー養成などを実施している区子ども会育成者組織や学区子ども会育成者組織（以下、「区子連等」という。）の負担軽減をはかるため、会議の開催方法の見直しなど、運営を効率化する必要があることを子ども会関係者に伝えるとともに、会議のファシリテーターなどの外部の専門家による相談支援を行いながら、効率化を促進します。

区分	振興策	内 容
多様な 支え手 の確保	○子ども会ボランティアサークルに対する支援の充実	・子ども会の行事を支えるために活動している、子ども会ボランティアサークルは、会員数が減少したり、コロナ禍の影響で活動の機会が減ったりするなど、以前と同じような活動を続けることが難しくなっています。 ・ボランティアサークルの意見も聞きながら、ボランティア会員の募集や研修、交流会の開催など、活動の活性化につながる支援策を検討していきます。
	○子ども会活動アシストバンク事業の拡充による負担軽減の強化	・子ども会活動アシストバンク事業では、行事当日の運営補助者の派遣を始め、行事の企画、準備段階からの相談支援、ミニゲーム・活動事例の発信など、子ども会運営に関して、幅広く負担軽減につながる事業を実施しています。 ・負担軽減策の強化を図るため、発信情報を充実するとともに、現在対象としている4区から、実施区の拡大を進めていきます。
	○地域団体との連携・交流事例の発信	・町内会や自治会などの地域団体と子ども会が一緒に活動することで、活発に活動している子ども会の事例を紹介していきます。
	○子ども会と学生・NPO法人等との連携に向けた仕組みづくりの検討	・多様な支え手の協力を得た運営につながるように、学生やNPO法人などの意見を直接聞きながら、子ども会が望む支援内容と提供できる支援内容をつなげる仕組みを検討していきます。

(2) 参加機会の充実

区 分	振興策	内 容
地 域 の 特 性 に 応 じ た 参 加 機 会 の 充 実	○地域子ども会の新設等につながる支援	・ 子ども会活動が行われていない地域の子どもの参加機会を確保するため、休止していた子ども会の統合による再開事例や学区単位での新設事例など、地域の特性に応じた取り組みを紹介するとともに、子ども会の新設等を促進するため、設立に必要な手続きの助言や地域への説明をサポートする仕組みを検討していきます。
	○区子連等における地域のすべての子どもを対象とした行事の促進	・ 子ども会に加入していない子どもや子ども会がない地域の子どものも、子ども会活動を体験できるよう、区子連等で、地域の子どもたち全員を対象にしたイベントを実施するための支援策を検討していきます。
	○新たな子ども会活動の検討	・ 子ども会活動が行われていない地域が増加している状況を踏まえ、従来の考えとは異なった、保護者以外の支え手が関わる新たな形で、子ども主体の子ども会活動を区などの大きな単位で実施します。

(3) 活動の魅力向上と効果的なPRの実施

区 分	振興策	内 容
活動の魅力向上	○子どもが主体となって企画・運営する子ども会活動の推進	・ 現在モデル事業として実施している、子ども自身が子ども会の行事を企画・運営する取り組みについては、子どもや保護者の満足度が非常に高い。 ・ この取り組みをさらに推進するため、保護者以外の支え手が関わる新たな形で、子ども主体の子ども会活動を区などの大きな単位で実施するとともに、そのノウハウも踏まえた、研修会の開催やファシリテーターの派遣などにより、子ども主体の取り組みを地域子ども会などにも、広げていきます。
	○子ども会活動アシストバンク事業の拡充による魅力向上	・ 現在4区を対象としている子ども会活動アシストバンク事業では、多様なイベント企画を提供しており、子ども会ごとの異なるニーズに対応することで、活動の魅力向上につながっているため、企画内容を充実するとともに、実施区の拡大を進めることで、子ども会行事の魅力向上につなげていきます。
効果的なPRの実施	○参加者による魅力発信の支援	・ 子ども会活動に参加するきっかけとしては、参加経験のある子どもや保護者からの口コミが大きな影響を与えています。参加経験のない子どもや保護者にも、子ども会活動の魅力が伝わるように、SNSツールの活用方法のサポートなど、参加者による魅力発信の支援を検討します。
	○多様な手段による情報発信の強化	・ 子ども会の支え手を広げ、活性化を図るためには、幅広く、市民向けに活動の重要性や活動内容を届ける必要があります。 ・ 広報誌や動画配信など、さまざまな方法で情報を発信し、市民の方々に子ども会の意義を広く伝える取り組みを進めます。

5 今後について

子ども会の振興に向けては、令和7年度から11年度を計画期間とする予定の「次期子どもに関する総合計画」において、加入率の増加、保護者負担の軽減及び参加者満足度の向上に関する具体的な目標を定めます。

また、本方向性に基づき実施する新たな支援策については、子どもや保護者に対するアンケートなどを実施することで、定期的に目標達成に向けた進捗状況の確認を行いながら、有識者を含めた施策効果の検証を実施し、必要な改善策を講じていきます。

子ども会活動は、子どもの豊かな育ちに非常に大切な取り組みであるため、今後より一層、関係機関とも連携しながら、着実に支援策を進めていくことで、活動の活性化を図ります。



参考資料 1 地域子ども会の団体数及び会員数の推移

年度	団体数	会員数	年度	団体数	会員数
	単位：団体	単位：人		単位：団体	単位：人
S48	2,739	186,563	H11	3,189	113,141
49	2,948	199,212	12	3,117	107,848
50	3,113	205,072	13	3,028	104,715
51	3,262	212,833	14	2,969	102,123
52	3,399	217,465	15	2,919	100,108
53	3,506	219,509	16	2,863	96,713
54	3,614	(注1)224,166	17	2,802	93,948
55	3,688	221,037	18	2,739	91,931
56	3,766	222,529	19	2,690	90,557
57	3,809	220,636	20	2,657	86,283
58	3,841	215,626	21	2,601	83,558
59	3,857	210,677	22	2,526	80,563
60	3,845	205,771	23	2,467	79,024
61	(注2)3,862	195,816	24	2,382	75,514
62	3,849	185,202	25	2,314	73,268
63	3,806	178,048	26	2,258	70,699
H元	3,751	167,626	27	2,192	68,513
2	3,708	162,315	28	2,130	67,028
3	3,668	154,937	29	2,026	63,360
4	3,607	149,905	30	2,013	60,770
5	3,538	143,419	R元	1,916	56,994
6	3,496	138,027	2	1,813	53,273
7	3,406	133,354	3	1,721	48,380
8	3,379	127,923	4	1,618	43,864
9	3,321	122,779	5	1,501	39,860
10	3,274	118,128			

注1、2：会員数の最多年度及び団体数の最多年度

参考資料 2 現行の子ども会に対する支援策

事業名	地域子ども会運営助成金	学区子ども会育成者組織運営助成金												
開始時期	昭和48年度	平成5年度												
助成対象	町内などの小地域を単位とし、その地域のすべての子どもを対象にしている子ども会 ※就学前2学年の幼児、小・中学生の児童を会員とし、会員5人以上で組織された団体であることなどが要件	学区を単位とし、その学区内すべての子ども会育成会を対象としてその活動を援助している学区子ども会育成者組織（学区子連）												
1団体あたりの助成基準額 (令和6年度)	<table><tr><td>子ども会員数</td><td>助成額（年額）</td></tr><tr><td>200人以上</td><td>71,900円</td></tr><tr><td>100～199人</td><td>48,900円</td></tr><tr><td>35～99人</td><td>25,900円</td></tr><tr><td>10～34人</td><td>19,600円</td></tr><tr><td>5～9人</td><td>16,000円</td></tr></table>	子ども会員数	助成額（年額）	200人以上	71,900円	100～199人	48,900円	35～99人	25,900円	10～34人	19,600円	5～9人	16,000円	11,100円+800円×地域子ども会数 ※地域子ども会数は、4月1日現在で学区子連に属するもの。
子ども会員数	助成額（年額）													
200人以上	71,900円													
100～199人	48,900円													
35～99人	25,900円													
10～34人	19,600円													
5～9人	16,000円													
助成団体数	1,501団体	137団体												

事業名	区子ども会育成者組織運営助成金	
	一般事業	リーダー養成事業
開始時期	昭和48年度	平成22年度
助成対象	区を単位とし、その区内すべての子ども会育成会を対象としてその活動を援助している区子ども会育成者組織（区子連） （リーダー助成事業の助成対象） 各団体において、リーダー養成のために実施するキャンプなどの野外体験活動等のプログラム	
1団体あたりの助成基準額 (令和6年度)	135,500円+500円×地域子ども会数+5,000円×役員従事者等人数 ※地域子ども会数は、4月1日現在で区子連に属するもの。	1団体あたり500,000～1,100,000円 ※各区の規模により異なる。
助成団体数	16団体	16団体

※助成団体数は、令和5年度実績

※上記の他、名古屋市子ども会連合会に対する運営助成金（年額38万円：令和6年度基準額）による支援あり。

項目名	子ども会活動アシストバンク事業
開始時期	令和3年度
事業目的	子ども会行事の運営協力などをする個人や団体を登録し、希望する子ども会に紹介することで、子ども会行事の企画や運営に係る保護者の負担軽減を図る。 また、子ども会運営に係る相談の受付、活動事例や支援情報の発信等を通じて、子ども会が抱える様々な悩みの解消を図ることで、主に役員である保護者の負担軽減を図る。 さらに、地域における子ども会イベントの企画提供やレクリエーションを提供する個人や団体を紹介することで、子ども会の魅力向上につなげる。
主な実施内容	(1) アシストバンクへの登録者・団体の募集及び集約 (2) 子ども会からの相談対応 (3) 登録者・団体への研修の実施 (4) 子ども会運営の支援情報の発信 (5) 子ども会活動の事例の発信 ※(4)及び(5)については、令和5年4月から実施。
アシストバンクの登録者	(1)活動アシスタント 行事当日の運営補助を行うボランティアの個人や団体 (2)イベント提供者 地域における子ども会イベントの企画提供やレクリエーションの実施をする個人や団体 (3)子ども会プラン提供企業・団体 子ども会行事向けのプラン等の提供（有償含む）を行う企業等
事業の推移	令和3年8月 天白区で事業を開始 令和4年7月 名東区に拡大 令和5年4月 南区、守山区に拡大 (令和6年8月現在4区で実施)
効果検証の実施状況	- 令和4年9月実施の効果検証（有識者6名）において、事業成果の確認を受け、事業内容の拡充について意見を受けている。 - 令和5年12月～令和6年1月の効果検証（有識者7名）において、事業成果の確認を受け、実施区の拡大の必要性について意見を受けている。

項目名	身近で魅力ある子ども会活動の発信
開始時期	令和３年度
事業目的	子ども会ならではの魅力を子どもや保護者に伝えることで、子ども会の認知度・イメージの向上を図り、子ども会への加入促進を図る。
実施内容	(1)子ども会の魅力を伝える動画（子ども向け『アニメーション』、保護者向け『ドキュメンタリー映像』）の作成 (2) (1)の動画を用いた情報発信 ・大型商業施設等に設置しているデジタルサイネージ ・市公式ウェブサイト ・Instagram、YouTube 等のソーシャルメディア (3)動画の二次元コードを掲載した加入促進啓発資材（チラシ、クリアファイル等）の作成・配布

項目名	円滑な子ども会運営のための支援
開始時期	令和３年度
事業目的	I C Tツールを活用した運営の効率化の促進を図ることで、保護者の負担軽減につなげるとともに、効果的な情報発信の手法を紹介することで、子ども会の魅力発信にもつなげる。
実施内容	・ I C Tツールを紹介する動画の作成・配信 ・ I C T活用に係る実践講習会の開催

参考資料 3 子ども会活動の振興策の方向性策定に向けた調査・検討

1 令和4年度実施

区 分	内 容
概 要	主に子ども会と地域団体等の関わりについて調査
経 緯	令和4年5月から7月に市内267学区の学区区政協力委員長を対象としたアンケート調査を実施（回収率：95.5%）

区 分	内 容
概 要	主に学区子連や地域子ども会の現状や課題について調査
経 緯	令和4年7月から8月に学区子連代表者156名を対象としたアンケート調査を実施（回収率：91.7%）

区 分	内 容
概 要	主に子ども会活動の特色や工夫、地域団体との関係、区子連や学区子連との関係などについて調査
経 緯	令和4年11月から令和5年1月に市内16の特徴的な子ども会及び当該子ども会と関わりが深い地域団体へのヒアリング調査を実施

2 令和5年度実施

区 分	内 容
概 要	様々な分野の学識者から子ども会の活性化に向けて必要となる施策について、テーマ別研究を実施
経 緯	令和5年5月から令和6年3月に学識者（4名）からそれぞれの専門分野（子どもの主体性、地域コミュニティ、マーケティング・消費者行動、ワークライフバランス）から子ども会の振興に必要となる施策提言を受領

区 分	内 容
概 要	子どもが主体となって企画運営を行う取り組みに対する支援をモデル実施
経 緯	令和5年7月から令和6年2月に、子どもワークショップを通じて、子どもが主体的に行事の企画に関わるとともに、ワークショップで出た意見をもとに、子どもが主体となった子ども会行事を実施

区 分	内 容																						
趣 旨	名古屋市子ども会活動振興策の方向性策定に向けた検討会議を設置し、子ども会活動に対する支援の基本的な考え方及び今後の支援のあり方について検討																						
委員構成	(敬称略、50音順) <table border="1"> <thead> <tr> <th>氏 名</th><th>所 属 団 体 等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>浅野 香代子</td><td>名古屋市子ども会連合会 副会長</td></tr> <tr> <td>今井 彩葵</td><td>名東区ボランティアサークル「じゃりんこ」代表</td></tr> <tr> <td>木戸 秀典</td><td>名古屋市子ども会連合会 会長</td></tr> <tr> <td>佐藤 彰</td><td>守山区子ども会育成連絡協議会事務局 (区子ども会育成者組織 事務局代表)</td></tr> <tr> <td>坪井 丈典</td><td>名古屋市立小中学校校長会副会長兼小学校部長</td></tr> <tr> <td>◎時安 和行</td><td>至学館大学健康科学部こども健康・教育学科 教授</td></tr> <tr> <td>中野 幸夫</td><td>名古屋市区政協力委員議長協議会 副議長</td></tr> <tr> <td>三浦 哲司</td><td>名古屋市立大学大学院人間文化研究科・ 人文社会学部 准教授</td></tr> <tr> <td>山本 奈央</td><td>名古屋市立大学大学院経済学研究科 経営学専攻 准教授</td></tr> <tr> <td>山本 陽子</td><td>名古屋市立大学大学院経済学研究科 経済学専攻 教授</td></tr> </tbody> </table> ◎：議長	氏 名	所 属 団 体 等	浅野 香代子	名古屋市子ども会連合会 副会長	今井 彩葵	名東区ボランティアサークル「じゃりんこ」代表	木戸 秀典	名古屋市子ども会連合会 会長	佐藤 彰	守山区子ども会育成連絡協議会事務局 (区子ども会育成者組織 事務局代表)	坪井 丈典	名古屋市立小中学校校長会副会長兼小学校部長	◎時安 和行	至学館大学健康科学部こども健康・教育学科 教授	中野 幸夫	名古屋市区政協力委員議長協議会 副議長	三浦 哲司	名古屋市立大学大学院人間文化研究科・ 人文社会学部 准教授	山本 奈央	名古屋市立大学大学院経済学研究科 経営学専攻 准教授	山本 陽子	名古屋市立大学大学院経済学研究科 経済学専攻 教授
氏 名	所 属 団 体 等																						
浅野 香代子	名古屋市子ども会連合会 副会長																						
今井 彩葵	名東区ボランティアサークル「じゃりんこ」代表																						
木戸 秀典	名古屋市子ども会連合会 会長																						
佐藤 彰	守山区子ども会育成連絡協議会事務局 (区子ども会育成者組織 事務局代表)																						
坪井 丈典	名古屋市立小中学校校長会副会長兼小学校部長																						
◎時安 和行	至学館大学健康科学部こども健康・教育学科 教授																						
中野 幸夫	名古屋市区政協力委員議長協議会 副議長																						
三浦 哲司	名古屋市立大学大学院人間文化研究科・ 人文社会学部 准教授																						
山本 奈央	名古屋市立大学大学院経済学研究科 経営学専攻 准教授																						
山本 陽子	名古屋市立大学大学院経済学研究科 経済学専攻 教授																						
経 緯	・令和6年1月から3月にかけて2回開催 ・令和6年3月に意見書「子ども会活動の振興に向けた方向性について」を受領																						

(参考：名古屋市子ども会連合会推進研究会)

区 分	内 容
概 要	名古屋市子ども会連合会主催で、活動の魅力発信や運営の効率化等の課題について、検討を実施
経 緯	令和 5 年 7 月から 8 月にかけて実施した、各区子連での議論を踏まえ、令和 5 年 8 月から 11 月に名古屋市子ども会連合会で検討を行い、令和 5 年 12 月に今後の活動方針をまとめて報告書を作成

3 令和 6 年度実施

区 分	内 容
概 要	子ども会に対する市民（子どもを含む）の認識等を幅広く調査
経 緯	令和 6 年 5 月に、市内の小学 1 年生～中学 1 年生の子ども及び保護者と 18 歳以上の市民（各 2,000 人）を対象に無作為抽出のアンケート調査を実施（回収率：①子ども及び保護者 48.3%、②18 歳以上の市民 39.5%）＜速報値＞

参考資料 4 「子ども会活動の振興に向けた方向性」について（意見書）の概要

区 分	内 容
子ども会活動に対する支援の基本的な考え方	・ 子ども会活動については、子どもの健全育成だけでなく、様々な面から重要な事業であるが、会員数や団体数の減少傾向が続いており、市が振興に向けた支援策の充実を図る必要がある。
子ども会の運営支援について	・ 子育て世帯の価値観の変化やライフスタイルの多様化等を背景に、活動を支える保護者の負担感が大きくなっていることから、早急に負担軽減につながる仕組みを検討する必要がある。 ・ 負担軽減につなげるため、ＩＣＴツールの活用や運営に関する好事例の発信等を通じて、運営の効率化が進むよう市として支援をしていく必要がある。 ・ また、保護者以外の支え手として、子ども会ボランティアサークルへの支援の強化や子ども会活動アシストバンク事業の本格実施、学生・NPO 法人等との連携などを進める必要がある。
子ども会活動の参加機会の充実について	・ 子ども会については、区、学区、町内会・自治会単位等の活動単位によって、運営の課題は異なることから、支援の内容については、それぞれの活動実態を踏まえて検討する必要がある。 ・ 近年の団体数減少を受け、活動が行われていない地域も少なくないことから、子ども会のない地域における参加の仕組みを検討する必要がある。 ・ 子ども会については、子どもにとって社会参加の機会の１つであるため、振興策の検討にあたっては、子どもの主体性を尊重し、参加の強制につながらないように配慮する必要がある。
活動の魅力向上と認知度・イメージの向上について	・ 子ども会の魅力向上には、子ども自身が主体的に行事の企画や運営に携わる取り組みが必要であり、子どもワークショップに対する運営支援などの取り組みが必要である。 ・ 子ども会への加入や継続につながる要因としては、子どもや保護者同士の推奨が重要になると考えられることから、子どもや保護者の子ども会に対する愛着をさらに高める取り組みを進める必要がある。
方向性策定にあたっての留意点	・ 方向性の検討にあたっては、アンケート等で子どもの意見を聞き、子ども目線で振興につながる施策を検討する必要がある。 ・ 今後、市が目指すべき子ども会活動は、団体数や会員数などの数字ではなく、参加した子どもの満足度など、活動の質を高めていくことを目標とすべきである。